
押し入れに居る

岳石祭人

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

押し入れに居る

【Nコード】

N4119D

【作者名】

岳石祭人

【あらすじ】

家で仕事をしているわたし。遊びに来た甥っ子がわたしの部屋で悲鳴を上げて泣き喚く。開いた押し入れで、彼が見たものは・・

押し入れに居る

(前書き)

*この作品はあゆみかん先生の「マヌカンが吠えるとき」(<http://nccode.syosetu.com/n5665c/>)のパクリです。わたくし、あゆみかんさんのファンで、オリジナルはとっても面白いのでぜひご訪問ください。

押し入れに居る

甥っ子が3歳の時の話だ。妹の子である。

一応長男であるわたしは両親の住む実家にずっといて、建築製図の清書の仕事をしている。近所にある設計事務所の請負がほとんどで、準社員のようなかつこうだが、お互いに用のあるときにしかわたしは出向かない。よって大抵は家にこもっている。

甥っ子だが、産まれたときからずっと見ている。産後の妹共々半年ほど家にいたし、その後も夫婦共働きのため週に五日は日中実家で預かり、大抵家にこもっているわたしは週に五日はこの子の面倒をみていた。おむつ替えなどお手のものだ。

自分で言うのもなんだが、甥っ子はずいぶんわたしになついている。忙しい父親などよりよほど長い時間遊んでやっているため、「自分の父親を誰だと思っているんだ？」と祖父母にからかわれたりしていた。

2歳を過ぎて歩くようになるようになってたいへんだ。仕事で部屋にこもっていても階段を上ってきて「おじちゃん！」とガラリと戸を開ける。「危ないから部屋には入ってくるな」と言っているが、聞く耳持たずだ。

いや本当に危ないから部屋には入れない。なんだかんだと資料が床に山積みされているし、鉄のガイドの付いた長い定規や、カッターがある。机に製図台が据えてあるが、今はここで仕事をするにはほとんど無い。別室のパソコンでCADでモニター上に描くのが99%だ。

もともと製図描きに使っていた部屋はベッドと、今や甥っ子のための工作室だ。幼児雑誌の付録を作ってやっていたが、飛び出す絵本を作ったり、ゴム動力の車を作ってやったりするようになっていた。

大抵下でおじいちゃんおばあちゃんが面倒をみているのだが、エ

ネルギーの固まりのような幼児のことである、二人とも疲れて面倒をみるのを投げ出してしまふ。そうすると遊ぶ相手を求めて2階に上がってくる。階段は危ないので以前は慌てて飛んでいったものだが、この頃には上がってくる分には特に危ないこともなくなっていた。

その日も、2時を過ぎても昼寝もせず、逆に祖父母の方が疲れて寝てしまい、甥っ子は2階に上ってきた。

わたしはその時いつものようにパソコンに向かっていた。

パソコンの小部屋は奥なので甥っ子はまず手前の工作室を開ける。ガラツと戸を開ける音がして「おじちゃん！」と声が出た。

危ないと部屋には入れないようにしているのだが、その時は掃除をして一応いろいろ整理しておいたので、仕事の手を止めるのも面倒で放っておいた。どうせ部屋にわたしが居なければここに来る。

ところがなかなか来ない。

好奇心で部屋に入ってしまったようだ。

それでもすぐにこっちに来るだろうから「しょうがないな」と思っている、突然、「ギャーギャー」と悲鳴が聞こえ、わたしは心臓が飛び上がるように驚いて部屋に駆け込んだ。

「どうした！？だいじょうぶか！？」

と訊くと甥っ子はふすまの開いた押し入れの前に突っ立ってギャンギャンと火のついたように泣き続けている。こんな泣き方は赤ん坊の時以来久しぶりで、わたしはどこかケガでもしたかと青くなつて甥っ子の顔や手足を調べた。

泣き声に驚いて祖父母も上がってきた。甥っ子は顔を真っ赤にして泣きながらわたしにしがみつき、わたしは抱き上げて廊下に出た。ふすまの開いた押し入れを見ながら……。

甥っ子は何にそんなに激しく泣いたのか？

だっこをしたままあやして、しばらくしてようやく落ち着いてから聞き出した。

押し入れに、大きいお姉ちゃんが座っていたそうさ。

甥っ子の言う「大きい」は小学校から高校生くらいまでと幅広い。テレビのお姉ちゃんだと言う。

よくよく聞くと、青い目をした外国のお姉ちゃんで、赤い大きい服「ドレスを着て、カーテンの付いた大きい帽子をかぶっていた」と言う。

やはりそうなのだろうなと分かった。

大きいお姉ちゃんとは、フランス人形のことだ。

わたしの押し入れの中にはフランス人形が寝かされている。

赤いドレスとレースの付いた赤い帽子をかぶった60センチくらいの背丈の青い瞳のお人形だ。

これは祖母「今は亡くなったわたしたちのおばあちゃんが妹に買ってプレゼントした物だ。

しかし小学生当時の妹はこれを「気持ち悪い」と気に入らず、すぐに箱に詰めて押し入れにしまってしまった。以来そのまま奥へ奥へと追いやられ、半年ほど前妹が自分の部屋の大掃除をしたときに見つけて「捨てる」と他のゴミとまとめて置いてあったのをわたしが「もつたいない」と引き取った物だった。

正体が分かって「なーんだ」と笑い話になった。

しかし仲の良いわたしは甥っ子から更に詳しい様子を聞いた。

お姉ちゃんは大きくて、押し入れの中にちよこんと座っていたそうさ。

わたしはベッドを万年床にしていて押し入れの中には2枚ほどしか布団は入っていないかった。人が座れる高さは十分開いていた。

甥っ子はお姉ちゃんはたしかに座っていたと言う。そのフランス人形は座らせることもできるが、わたしは立った姿勢のまま布団の上に寝かせていた。

しかも。

そのお姉ちゃんは甥っ子がふすまを開けると「ばあっ」と言った

のだそうだ。それで甥っ子はびっくりして悲鳴を上げたのだ。
わたしはなんとなくそのお姉ちゃんがイタズラっぽく笑う顔を想像した。

夜迎えに来た妹に祖父母からその出来事が報告され、妹にも笑われて甥っ子はへそを曲げてフンとそっぽを向いてしまった。妹はわたしに「あんな気持ち悪い人形さっさと捨てなさいよ」と軽蔑した目を向けた。

わたしはそういう物が好きだった。

流行もすっかり下火になったようだがフィギュアという物も、わたしはとにかくリアルな、大人の女性のモデルが好きだった。

恥ずかしいがここまで書いてきたので白状しよう。

工作室には小さいがテレビがある。わたしは寝る前に彼女といっしょによくビデオを見る。ベッドの上で足を布団に入れて、となりに座らせたり、腿の上に乗せたりして、ビデオの感想を彼女と話しながら見ている。

我ながら病気だろうと思う。いい年をして結婚の予定はまるっきり無い。

わたしはとにかく美しい女性が好きだ。

デパートのマネキンなどにもつい目を止めてしまう。

美しい女性ならば、生きている人間でなくなっただっていいのだ。

青い目の美しいフランス人形は今のわたしの一番のお気に入りだ。

わたしは甥っ子がうらやましくて仕方ない。

彼女に口づけて「なんでわたしの前では人間の姿を見せてくれないんだい？」と訊いた。

彼女は澄まして微笑んでいるだけだ。

いつかは、と、わたしはずっと夢見ている。

終わり。

(後書き)

ああ、そんな冷たい目で見ないでください。フィクションです、もちろん、ゼーんぶ作り話です。

でも人形は好きだけど・・・いやいや。

お口直しに是非、

あゆみかん先生「マヌカンが吠えるとき」(<http://nc>

[ode.syosetu.com/n5665c/](http://nc))を。

2008, 1, 9

押し入れに居る

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4119d/>

押し入れに居る

2009年3月24日10時19分発行